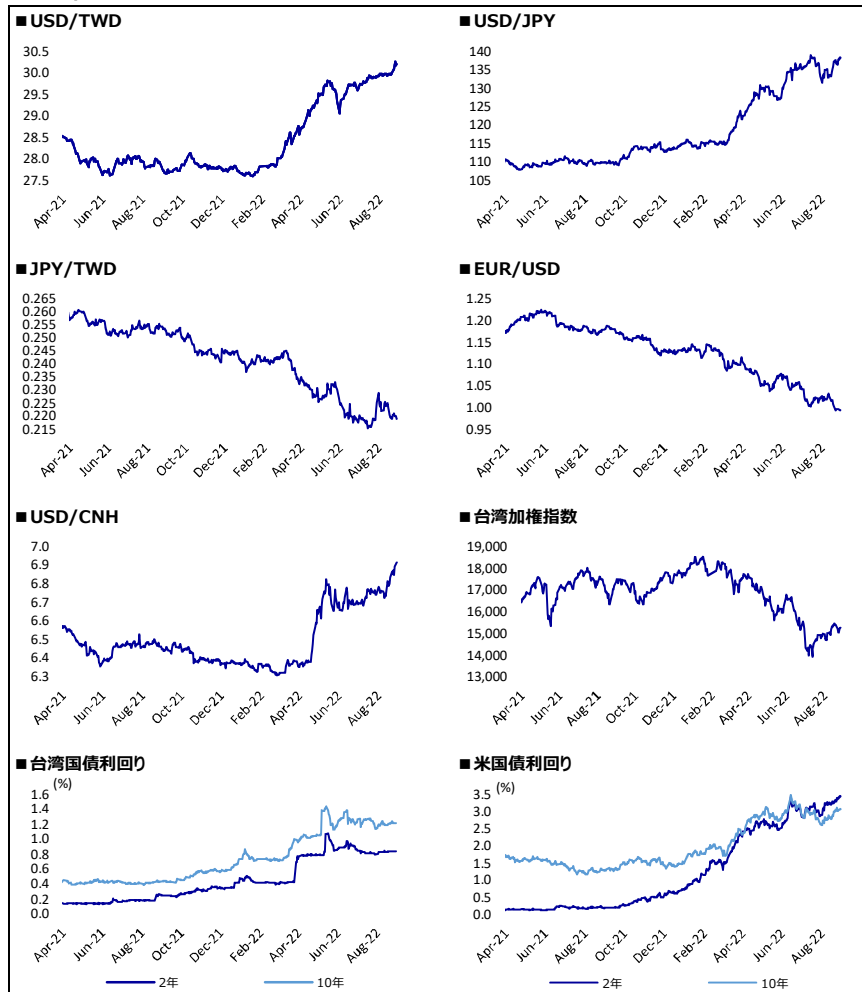


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇し、一時約2年4か月ぶりの水準に。週初8/22は30.060でオープン後、先週からのドル全面高の流れで台湾ドル売りが優勢に。台湾株安や輸入企業のドル買いもサポート材料に30.10付近まで上昇。8/23は欧州景気への懸念からリスク回避の動きが強まり、外国人投資家が台湾株売りを加速し、台湾ドルは売られ30.20台まで上昇。8/24もリスク回避から台湾株売り台湾ドル売りが継続し、30.28付近まで上昇、8/25には一時30.315をつけた。しかし、リスク回避ムードが和らぎ下落していた台湾株が上昇するとドルがじり安の展開となり、一時30.20を割り込んだ。8/26はジャクソンホールでのパウエルFRB議長の講演を控え、方向感に乏しくレンジで推移し、最終的に先週比0.7%ドル高台湾ドル安の30.218で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は370.2億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初8/22は136.28でオープン後、米国の金融引き締めへの警戒感が高まり、米10年債の利回りが3%台に乗せる中、ドル買いが優勢となり137円台半ばまで上昇。8/23は株安やウクライナを巡る地政学リスクの高まりを背景にリスクオフの流れとなり、137円台前半まで下落。さらに、米8月製造業・サービス業PMI、米7月新築住宅販売件数が全て市場予想を下回ったことが嫌気され、米金利は低下、ドル売りが強まると136円台を割り込み、一時135.82まで急落。売り一巡後は、米2年債の入札が不冴えであったこともあり、米10年債利回りが3%台に戻す中、ドル円も136円台後半まで戻した。8/24は岸田首相が海外からの入国について緩和策を発表し、インバウンド拡大への期待から円が買われると136円台前半まで下落したが、米金利の上昇につられて137円台前半まで上昇。8/25は様子見ムードが広がる中、米第二四半期GDP改定値が予想を上回ったことや米金利の動向から、売り買いが交錯し、136円台後半を中心に方向感に欠け動きとなった。8/26はジャクソンホールでのパウエルFRB議長の講演が始まるとタカ派な内容が伝わり、137円台半ばまで上昇したが、同時に発表された米8月ミシガン大消費者マインド指数が上振れ、期待インフレ率が下振れすると136円台前半まで下落。その後も荒い値動きが続いたが、パウエル議長の講演内容を受けたドル買いから、じり高の展開に一時137.75をつけた。最終的に先週比0.5%ドル高円安の137.67で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：30.000-30.500
ジャクソンホール経済会議でのパウエルFRB議長のタカ派な発言から株安米ドル高の流れとなっており、今週は台湾ドルは売られやすい状況が続くとみられる。

■ USD/JPY 予想レンジ：136.00-139.40
先週のジャクソンホール経済会議のタカ派なパウエル議長の講演から米国の金融引き締めが再認識された形となったが、今週は8月米雇用統計等重要指標の発表を控えている。良好な内容となると金融引き締めをサポートする材料となるため、上値を追う展開となるであろう。

今週の予定

8/29 (MON)	
8/30 (TUE)	米8月消費者信頼感指数
8/31 (WED)	ユーロ圏8月CPI
9/1 (THU)	台湾8月製造業PMI、ユーロ圏8月製造業PMI、米8月ISM製造業景気指数
9/2 (FRI)	米8月雇用統計

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。